利き手矯正経験者における利き手矯正の必要性と自認する利き手について

福井県立武生高等学校

〈はじめに〉

(主観的な利き手矯正の必要性)

当事者にとっての矯正の必要性が不明

(自認する利き手と実際との差異)

「左利きの多くがクロスドミナンス」という説に対する統計的資料がない

本研究は、以上2点の解明を目指した。

〈結論〉

(主観的な利き手矯正の必要性)

回答者の多数が肯定的な反応をして、矯正には一定の必要性を確認した。

(自認する利き手と実際との差異)

クロスドミナンスが自認するよりも多く確認され、複数の利き手が混在するためだと考えられた。

〈調査手法〉

いずれの調査も本校生徒のうち、総合的な矯正を受けた生徒を対象とした。有効な回答は12件であった。

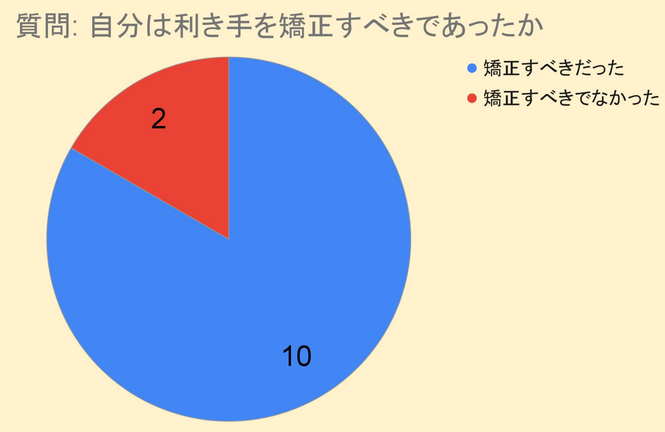
(利き手矯正の必要性)

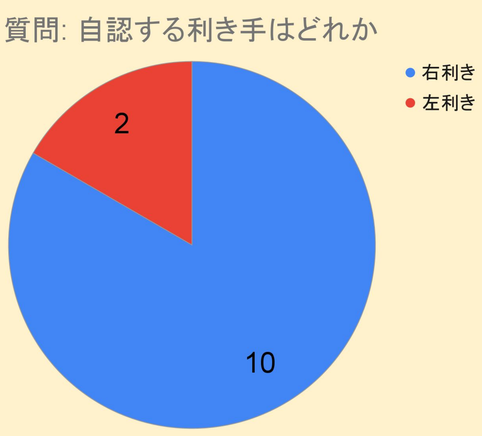
回答者に利き手矯正の必要性と、経験に基づいた根拠をアンケートした。

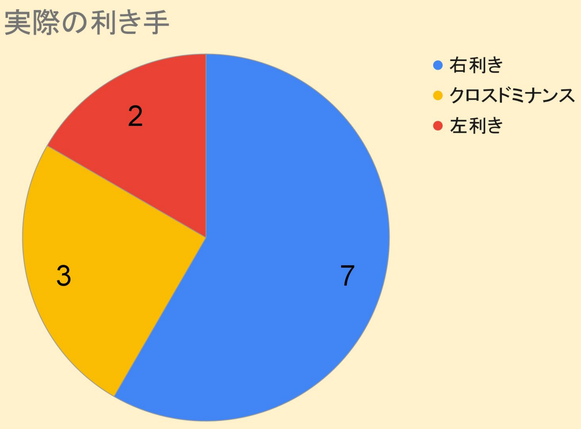
(利き手矯正の必要性)

回答者に自認する利き手と、経験に基づいた根拠をアンケートした。その後、大久保街亜, 鈴木玄, Nicholls Michael E.R.による「日本語版FLANDERS利き手テスト」を行い、結果を比較した。

〈結果〉







(主観的な利き手矯正の必要性)

肯定側「矯正を通して生活で苦労する場面が減ったと感じられた」

否定側「利き手矯正の必要性が感じられない」との根拠が見られた。

(自認する利き手と実際との差異)

右利きと自認した10名中3名がクロスドミナンスであった。

参考文献

中田華子(2018)「書字活動における利き手矯正とその在り方について」『横浜国大国語教育研究』

大字直哉(2023)『左利きの言い分』PHP新書

大久保街亜, 鈴木玄, Nicholls Michael E.R.(2014)「日本語版FLANDERS利き手テスト――信頼性と必要性の検討――」『心理学研究』